



みどりの風

公益財団法人
 奈良市生涯学習財団 月ヶ瀬公民館
 奈良市月ヶ瀬尾山 2815 番地
 TEL&FAX 0743-92-0346
 発行人 館長 上田 善紀
 発行日 平成28年11月24日(木) 第9号

バザーコーナー紹介



左より→あゆの塩焼き(漁業協同組合)、みたらし団子(JA女性部)を提供してくれました。

晴天に恵まれた月ヶ瀬文化祭。駐車場では8団体が出店、文化祭の雰囲気を感じてくれました。



月ヶ瀬文化祭特集②



左より→B級グルメ富士宮焼きそば(月ヶ瀬みらい)、うどんなどいっぱい(なかよし会)、もったいない陶器市

女性学級

女性学級④・ヨガでリラックス

11月19日(土)、前回に引き続き

ヨガ療法士の辻 明子さんを名張市よりお招きして、11名の皆さんがリラックスタイムを共有しました。

ヨガは、「動く瞑想」といわれ、意識して呼吸をすることでリラックスします。ゆったりと呼吸することが少ない現代人にとって、とても大切な時間となると教わりました。



来年の梅の里学級にもきていただく辻 明子さん。

■参加者の感想...思った以上に、股関節が硬くなっていると気づいた。腹式呼吸は腸の動きを活発にすると聞いて、ヨガを身近に感じた。

秋の叙勲で、小西伸秀さん(元月ヶ瀬商工会長)に旭日単光章を、森下清也さん(元月ヶ瀬村収入役)に瑞宝双光章を、それぞれ授与されました。

月ヶ瀬薫風

文化祭で展示された月ヶ瀬俳句クラブの方々の作品を第8号で紹介

させていただきまし
た。以前に丸山佳子氏について触れましたが、その縁から地域の方々が集まって句会を開いたり俳句誌『京鹿子』に投稿したりされています。▼能や狂言が、「伝統芸能」としてではなく、「民俗芸能」として月ヶ瀬に息づいているのと同様、俳句を「高尚な文学」としてではなく、仲間をつながりやたためながら楽しむ身近な文芸として、地域の中で息づいているのです。舞台発表をされたコーラスやフラダンスを含めて、良きものを良きものとして捉え、自分たちのものとされていくことに改めて敬意を抱いた月ヶ瀬文化祭でした。

茶芽子クラブ

「たこ焼きづくり」に挑戦

11月9日(水)、茶芽子クラブでは、2〜3人に1台のたこ焼き器でたこ焼き作りに挑戦。自分で焼いたたこ焼きは、また格別の味でした。



じゃぶにたこ焼きをひっくり返す 西原 乃愛さんと西浦永弥子さん

- 大谷 綾乃さん(3年)：売っているたこ焼きよりも、自分で作ったたこ焼きの方がおいしかった。
- 東谷 桜大くん(3年)：たこ焼き器でクルッとするのが楽しかった。
- 相和 巧雅くん(4年)：具を入れすぎるとうまくひっくり返せなかった。こんじょうで返した。
- 西脇 春菜さん(5年)：やっていくうちにだんだん慣れてきて、うまくひっくり返せるようになっていった。
- 西原 乃愛さん(5年)：丸い鉄板の中で転がしながら焼くのがうまくいったので楽しくなった。

梅の里学級

歴史を学んできました

梅の里学級では、NHKの大河ドラマ「真田丸」ゆかりの九度山(くどやま)和歌山県に、11月16日(水)、館外学習で訪れました。九度山は、真田昌幸・幸村父子が関ヶ原の戦いで豊臣方に参加したことで、徳川家康から流罪の処分とされ、流された土地でした。



一行47名の皆さんは、昌幸・幸村父子が幽閉されていた「真田庵」と、歴史が学べる「真田ミュージアム」を見学、戦国時代の一コマを学んできました。

参加者の感想：行き先が九度山とわかってから、NHKの「真田丸」が、ますます興味深くなって、今日の館外学習を楽しみにしていた。幸村は雌伏(しづく)の人だとわかった。

月ヶ瀬小・中学生のみなさんへ

伝統を守る月ヶ瀬っ子たち

第2弾 小学校編

11月18日(金)、公民館のホールでは、月ヶ瀬小学校の学習会が行われました。そこでも、5年生が「尾山万歳」を、6年生が「狂言」をそれぞれ立派に演じていました。



こっけいなしぐさとまじめな表情のギャップに、会場がおいにわきました。

6年担任・藤原 克巳先生の話：すぐに話になじめるように、台本を現代語訳して伝えた。こういう意味だからおもしろいという理解してセリフを覚えたことで演技が変わった。尾山万歳を含めて、地域に誇りが持てること、共通の話題として大人になってからも共有できることがうれしい。

西森 亮裕くん(主人役)：台本

もらった時、意味が全然わからなかったけど、翻訳してもらって意味がわかってきて楽しくなりました。しゃがむとき、服がからまって演技がたいへんだった。

■上田 爽楽くん(主人役)：人物に感情移入して演じる努力をした。自分なりにいろんな表情をしていると思うと楽しくなってきた。友達が練習以上の演技をしていて驚いた。

■岩田 文月くん(太郎冠者)：完成型が分からず、イメージがわからなかったが、井ノ倉さんに教えてもらって稽古がおもしろくなってきた。本番では、おもいっきりやったろと思った。

■田端 寿樹くん(次郎冠者)：台本を見ても意味が分からなかったけど、読み合わせをしていくうちに、どんどんセリフが覚えられた。難しい言葉だったけど、小さい子からも笑ってくれてうれしかった。



微動だにしない田端さんと岩田くん